

No.28 クレス・オルデンバーグ

Claes Oldenburg

「リップスティック」

北川フラムさんのコラム / 1996 (平成8) 年 10月1日付 立川市市報記事より

ファーレ立川はこの10月13日で2周年を迎える。作品の安全に対する心配も当初の不安に比して、きわめて良好で、立川市民の理解と愛着が増しているように思われる。それでも多少の修理が必要なものもあって、このオルデンバーグのリップスティックもそのひとつだった。ファーレではほとんどの作品をアーティストたちは新たに制作したが、これは1966年の作品で、場所にあわせて検討をしたときに、「この場所には私の愛蔵しているリップスティックの最初のを設置したい」ということだった。

実際にも、鉄板一枚の口紅が色鮮やかにしているのを知ることができる。この作品がある歩道を「アメリカ通り」と言った友人がいるが、そんな感じがよく分かる。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現: UR 都市機構) 「ミニ通信」より

“リップスティック“1967-71”は、1967年、シドニー・ジャニス・ギャラリーで開かれたマリリン・モンローに捧げられた展覧会のために作られました。

それは、リップスティックの形をした(映画でしか私が知らない)女優の“ポートレート”です。リップスティックは、映画スターとしての彼女のアイデンティティーにとって非常に重要なものでした。

このオブジェは、広告版や、奥行きのない映画のない映画のスクリーンのように二次元です。しかし逆接的ですが、ここに描かれた像は、炉棚の上に立て掛けられた肖像画のように、三次元の空間に置かれます。

リップスティックは、表現という意味では、絵画というよりはむしろ彫刻として実現されたオブジェなのです。